

第44回少年野球多賀城大会運営規定

I チーム編成について

- 1 監督1名、コーチ2名、選手20名以内とし、リトルリーグ登録者は、登録を認めない。
- 2 背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将は10番とする。
- 3 競技者は、選手、指導者とも、原則として同一ユニフォームを着用しなければならない。ただし、マネージャー及び合同チーム等はその限りでない。
- 4 保護者及び応援者は、多賀城市スポーツ少年団野球部連絡協議会(以下「協議会」と言う。)又はグラウンド担当チームの定めた場所で応援すること。

II 用具について

- 1 試合球は、ナガセケンコーJ号を使用する。
- 2 金属製バットは、公認のバットに限る。また、雷雨時を想定して木製バットを用意すること。
なお、ヘルメット及び捕手防具についても公認のものを使用すること。
- 3 スパイクは、ゴム製を使用すること。金属製スパイクは、認めない。
- 4 定めのない事項については、協議会又はグラウンド担当チームと協議の上、決定する。

III 規則(ルール)について

- 1 試合はすべて、全日本軟式野球規則(学童の部)及び当協議会運営規定による。
- 2 試合開始30分前程度に、メンバー表(控え選手も記入)3部をグラウンド担当が指定する場所に提出し、確認を得て先攻、後攻を決める。
- 3 試合時のベンチは、組み合わせの番号の若い方を1塁側とする。
- 4 グラウンドルールは、グラウンド担当チームの指示に従うこと。
- 5 試合時間については以下のとおりとする。

大会初日及び2日目:60分 / 大会最終日(準決勝・決勝):70分

なお、全試合5回戦とし3回以降10点差の場合はコールドゲームとし、同点の場合は延長戦を行わず抽選で勝敗を決する。ただし、決勝戦のみは、70分経過時に勝敗が決していない場合は、勝敗が決するまで時間を延長し、7回までに勝敗を決していない場合は○×式の抽選で勝敗を決する。

- 6 アピール権は、当事者及び監督(又は監督に代わるコーチ)のみとする。ただし、確認のみとすること。
- 7 投手の投球練習は、初回及び交替時は7球又は1分以内とする。その他のインニング交替時は4球以内とする。
- 8 打者は、打者席に速やかに入って打撃姿勢をとりベンチでのサインの交換は打者席に入った

まま受けること。

- 9 タイムは、1イニング2回までとする(2回目のタイム時は、投手の交替を告げたものとする。)
- 10 同一投手は、健康管理上1日の投球制限を70球とする。
- 11 試合終了後の相手チームへの挨拶は主将だけとし、他の選手はベンチを開ける準備すること。なお、本部席、受付(混雑を避けるため)及びイニングごとの挨拶も省略すること。
- 12 定めのない事項については、協議会又はグラウンド担当チームと協議の上、決定する。

IV 禁止事項

足を上げてのスライディング、空タッチ、次打者席での素振り、ベース上に腰を下ろすこと、ベンチ内での喫煙、食事、飲酒、名誉を傷つけるようなヤジ(発覚した場合は、次年度大会招待を考慮する。)

V その他の事項

- 1 大会参加は、全員スポーツ傷害保険に加入を義務づける。
- 2 この大会は決勝戦を除いて帯同審判員等を義務付ける。
 - (1) 帯同審判の資格
日本野球協会審判員、県野球スポ少野球競技会審判講習受講者及び有識者
 - (2) 服装 審判帽
上 白ワイシャツ等(ただし、天候によりウインドブレーカー着用可)
下 紺又は黒のズボン等 運動靴
 - (3) 大会初日・大会2日目
1試合目 主審・2塁審 グラウンド担当チーム、1塁・3塁審 帯同審判員
2試合目以降 主審・2塁審 前試合の勝者チーム、1塁・3塁審 帯同審判員
 - (4) 大会3日目
決勝戦 協議会審判団で行います。
準決勝 主審・2塁審 協議会審判団、1塁・3塁審 帯同審判員
- 3 開会式参加チームのユニフォーム着用指導者は、3塁側に整列すること。
- 4 当協議会は、いかなる負傷、死亡等による損害について一切の責任を負わないものとする。
ただし、応急の措置については可能な範囲で行う。
- 5 この他、定めのない事項については、協議会又はグラウンド担当チームと協議の上決定する。